

# サイヤインゲン

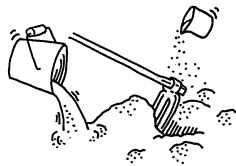
## 1 畑の準備

### 土作り

種まきの2週間前までに苦土石灰、堆肥をまきまします。しっかりと土壌混和をしておきましょう。

※連作障害が起こるので連作は避けましょう。出来れば3~4年の休耕を含む輪作(毎年マメ科、ナス科、ウリ科、アブラナ科など違うものを作る)をしましょう。

- ・苦土石灰：  
1㎡あたり100~200g
- ・JAファーム有機堆肥：  
1㎡あたり2~3kg



### 元肥・うね立て

種まきの1週間前までに元肥をまき、うね立てを行います。うねを作る場所に溝を掘り、そこに元肥をまきまします。その後土を被せうねを作ります。

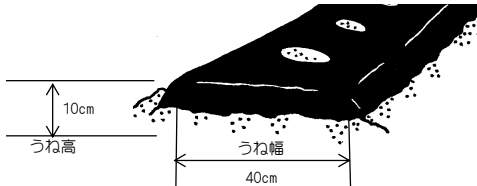
マルチを使う時は、うね幅は40cmにしましょう。



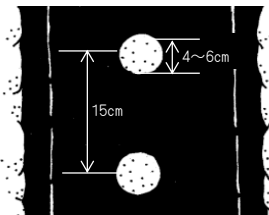
- ・JAファームやさいの元肥：1㎡(うねの面積)あたり100g~150g (ひと握り約40~50g)

## 2 マルチ張り

マルチを張る場合は、マルチを張り穴をあけます。



### 上から図



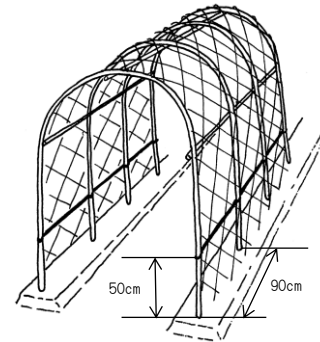
**マルチ張りワンポイント!**  
つるなし種は、泥はね防止や、病気の発生を防ぐためにも、マルチを張るのがオススメです。また、除草の手間も省けます。

- ・豊作お手軽75マルチ黒 幅75cm×50m巻：  
穴なしのマルチです。穴をあけて使ってください。

## 3 支柱立て

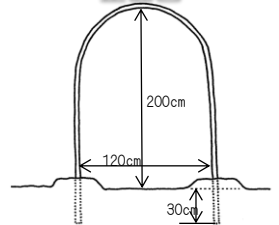
つる性種の場合は支柱を立てましょう。支柱には各種ありますが、収穫、防除作業の省力化、強風対策などから高さ2m、間口120cmで垂直に近いアーチ支柱にネットを張った方式がオススメです。

※買った種が「つるなし種」が「つる性種」が必ず確認しましょう。「つるなし種」は支柱は使用しません。



サイヤインゲンの重みでネットが内側にたるまないように、地面から50cmくらいのところ、紐を張ります。ネットはバックル、紐などで支柱に結びつけます。※ネットを張るときはネットが絡まらないように気をつけましょう!

### 正面図



パイプはサイヤインゲンが絡みやすいように、うねの真ん中に差します。パイプは地中に30cm以上(うねは含まない)埋め込みます。

## 4 種まき

10cm間隔(株間)で種をまきまします。マルチを使っている場合は15cm間隔です。



発芽を良くするため、一晩水に浸ける。

**覆土ワンポイント!**  
種の2倍くらいの厚さで土をかけましょう。

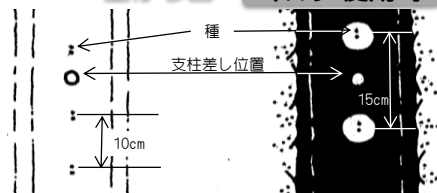


※まき穴は、空缶などで作ると便利です。

### 種まきワンポイント!

種をまく時は1ヶ所に2粒ずつまきましましょう。

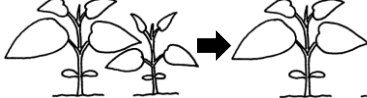
### 上から図 マルチ使用時



## 5 間引き・土寄せ

### 間引き

本葉が1~2枚展開したころに間引きをします。種を1ヶ所に2粒ずつまいたので、2つとも順調に育っているものを1つ間引きします。間引きの際は引き抜くと隣の株が傷むので根元から切り取るようにする。



鋏などを使い切り取る!

### 間引きワンポイント!

2つとも発芽しない種がある場所は、間引く予定のものを、根を傷めないように持ってきて植えると、その場所も上手に利用できます。(ただし、普通に間引きをする場合は上記のように、切り取った方が根を傷めません。)

### 土寄せ

株の根元の土が凹んできたら土寄せをします。株が倒れるのを防ぐとともに、除草もする事ができます。



※マルチ栽培の場合は、土寄せはしません。

## 6 防除

防除は予防が大切です。定期的に行いましょう。

### 主な病害虫

・うどんこ病  
6月中旬頃から急激に広がります。

・ハモグリバエ  
葉の中に入ってしまうと、農業は効かないので注意!



ハモグリバエは、葉の中に入りこみ、通った跡が白くなります。

・アブラムシ  
幼苗期から開花頃にかけて。アブラムシはウイルス病を媒介するので、気をつけましょう。

## 7 収穫

### 収穫開始時

- ・つるなし種：  
種まきから約50日~55日で収穫が始まります。
- ・つる性種：  
種まきから約60日で収穫が始まります。

### 収穫期間

- ・つるなし種：  
約10日~15日
- ・つる性種：  
約30日~40日

**収穫ワンポイント!**  
収穫最盛期には毎日または1日おきに収穫します。株への負担が少なくなり、収穫期間が長くなります。



※品種、栽培条件によって違いがあります。

科名	マメ科
原産地	中南米
連作障害	あり(3~4年)

制作  
**JAファーム** 専門部会  
(無断転載禁止)